

ならじよ
奈良女子大学通信
today

vol.
38
July
2022

特集

対話は、糧だ。

—対話を通じて、奈良女、大学生、未来について考える—



- 06 Introduction to Master's Studies
- 10 先生に聞いた！あなたの運命の一冊
- 12 Club/Circle # NWU
- 13 佐保会 各支部リレー便り・なでしこ基金
- 14 学部入試都道府県別入学者数【R4年度】・奈良女子大学の就職支援
- 15 Campus Topics・2021年度学生記者活動を終えて
- 16 あの頃の奈良女へタイムスリップ！！
＝ 本学自慢の名物教授 第8回 的場 輝佳編 ＝

国立大学法人奈良女子大学と、国立大学法人奈良教育大学が統合し、国立大学法人奈良国立大学機構が2022年4月1日より設置されました。今回は、その奈良国立大学機構の理事長を務める榎裕之先生に、奈良女子大学学生記者の内田が、お話を伺います。

今回の取材、とても楽しみにしていました。本日はよろしくお願ひします！
榎：こちらこそ、よろしくお願ひします。私は学生時代には友人との対話や教員との対話を楽しみ、教員になつてからも同僚や学生との対話から知的な刺激を受けてきたため、対話は自分が学び、成長する貴重な場であると思つています。特に、学生との対話を通じて、自分の考えが整理され、新たな考えが生まれることを度々経験してきたので、奈良でも学生さんたちと語り合う機会を持ちたい

と思つてきました。今回、そうした機会を貰い、誠にありがたいと思つています。

早速ですが質問です。国立大学法人奈良国立大学機構が発足することは学生も知つているのですが、具体的に何が変わるのか分かつていない学生も多いです。具体的にはどのようなことが変わるのですか。

榎：いい質問ですね。これまで、奈良女子大学と奈良教育大学は近くにありながら、全く独立した法人として運営されてきましたが、今後、両大学は、互いに自主性を尊重しつつも、法人格を統合し、公的パートナーとして相互協力を進めることを決定したのです。法人統合の第一の目的は、両大学が、自主性を重んじながらも、互いの違いや良さを学び合い、支え合い、大学として高め合うことにあります。

第二の目的は、運営上の無駄がないかを点検し、改善を目指すことです。例えば、両学には事務面などで不要な重複があるかも知れません。その場合は、重複は減らし、国から受ける財的資源をより効果的に使っていく

ことを目指します。

私は、第二の目的、つまり、両大学が地道な協力を進め、教育・研究機関として互いに高め合うことが最も重要だと思つています。具体的には、今年から、両学が提供する教養科目の講義の部で、相互乗り入れを始めますが、徐々に拡大していく予定です。学生の皆さんには、両大学が提供する教養科目の中から幅広く選択できることになります。また、同じ講義の受講を通じ、両学の学生間で対話が進むことも期待しています。

この教養科目の相互乗り入れに加え、奈良国立博物館や奈良文化財研究所や奈良先端科学技術大学院大学などの先生方から、教育・研究上の協力を得る仕組み、「奈良力レックス」も始まります。その二環で、今年8月、連携組織の先生方も加わり、特別講義を集めた「学問祭」と呼ぶ催しを行いますので、多くの学生の参加を期待しています。さらに、教員の養成や研修に関しても、両大学が協力を強める計画が進んでいます。

今後は、両大学をより良くするために、教職員に加え、学生さんにも新しい知恵を出してもらい、より素敵な大学にしていくようにすることが、私の望みです。残念なことに、日本の大学、特に、大きな大学では、教員も学生も個々の学科や学部内に留まり、学部間や大学間の壁を越えた学びや啓発が生まれにくい状態にあります。しかし、奈良では、法人統合を機に組織の壁を越えた学びや研究を進め、教職員と学生が、広い視野と高い志をもって日々成長するユニークな学びの場としたいものです。

次の質問です。やはり都会の大学に憧れることってありますよね。そんな中で他のどこでもなく、奈良で学ぶ魅力とは何だと思ひますか。

榎：確かに、刺激に富む大都会の大学には固有の魅力がありますが、オックスフォードやプリンストンなど欧米の一流大学の多くは、文化レベルが高い小さな町にある事実注目に値すると思ひます。そうした大学では、通学や通勤に使う時間が短くなるため、学生同士や学生と教員との触れ合いの時間がとりやすい利点が生じます。また、都会の喧騒から離れられるので、学問や思索を深め、自己研鑽しやすい点も魅力ですね。さらに、奈良はこれらの魅力を備えている上、豊かな文化遺産に加え、自然にも恵まれています。学生時代の4年間、奈良の良さを日々味わいながら知性と感性を磨けるなんて、世界的に見て、とんでもない幸運だと思ひますよ。

また、奈良女子大学の場合、親元から離れ、奈良を第二の故郷として暮らす学生が多いそうですが、二つの地域で生活を体験できることもとても貴重です。私は、高校卒業まで名古屋で育ち、大学入学以降の43年間、東京で暮らしましたが、二つの地域で暮らせたことに感謝しています。東京で生まれ、東京で育った友人には、東京が「太陽」系の中心であり、その他の地域は全て「惑星群」だと誤解する人もいるんですね。名古屋と東京で

対話は、糧だ。

—対話を通じて、奈良女、大学生、未来について考える—

では次の質問です。男女平等が進んでいく中で「今の時代に女子大は必要か」という疑問を投げかけられることがあります。現代における女子大の意義とは何だと思ひますか。理事長という立場におられる方からのご意見をお聞きたいです。

榎：重要な質問ですね。これに答えるために、まず、女子大学の誕生の経緯を考えてみましょう。1913年に東北帝国大学が入学を認めるまで、我が国の旧制高校と帝国大学は女性を受入れませんでした。そうした環境の中、1890年に東京で、1908年

暮らしたお蔭で、東京は国内最大の都市ではあつても、各地に多様な魅力的な町が存在すること、世界的に見れば、東京も太陽ではないことが実感として分かります。故郷から離れた町で大学生活を送れることは、とても価値があることだと思ひます。

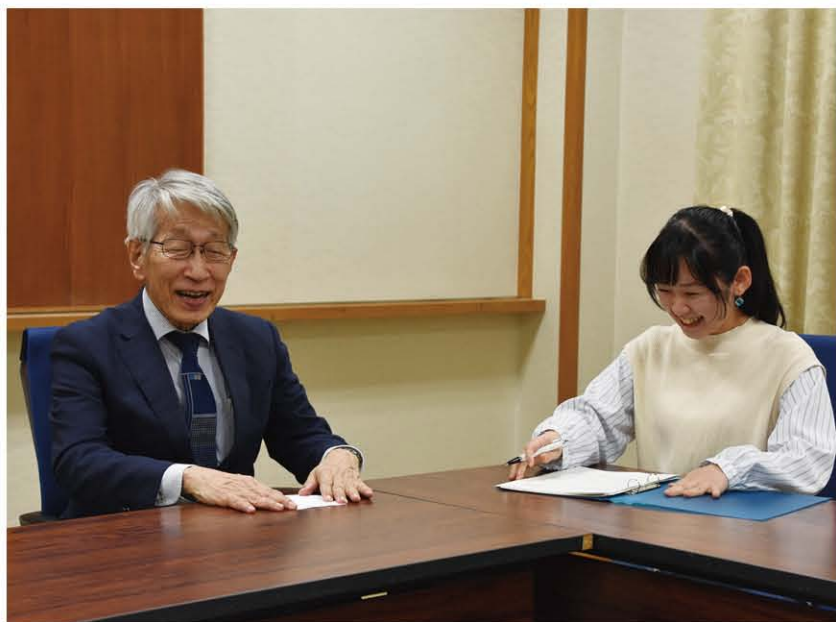
また、奈良女子大学や奈良教育大学が持つ伝統や強みも認識して欲しいと思つています。両学は、小規模ながら、人文・社会科学系から理系の基礎と応用分野、さらに芸術などまで、広い分野をカバーする教員がおり、専門を深めるのに好都合だけでなく、様々な学問の根つことなる共通の基礎概念や方法を幅広く学べる点も強みです。また、両学は、師範学校の伝統を持つため、教育や学びについて考えを深めるにも理想的な場です。さらに、奈良力レックスの枠組みで、他の組織からも教育上の貢献が得られるので、日本で有数のリベラルアーツカレッジに成長できるものと思つています。

内田：私は新潟出身なのですが、新潟の良さを新潟を出た今、実感しています。比較してみても初めて気づくことって多いですね。では次の質問です。男女平等が進んでいく中で「今の時代に女子大は必要か」という疑問を投げかけられることがあります。現代における女子大の意義とは何だと思ひますか。理事長という立場におられる方からのご意見をお聞きたいです。

榎 裕之 (さかき ひろゆき)

専門分野は半導体電子工学(ナノ構造による電子の量子制御と素子応用)。東京大学教授、豊田工業大学学長などを経て、2022年4月1日に設置された国立大学法人奈良国立大学機構初代理事に就任。





長としては、国内の大学関係者に加え、多くの国の方々に、奈良女子大学や奈良教育大学に来てもらったり、資料を見てもらったりする機会を設け、両大学の良さがよりよく伝わるようにしたいと思っています。

内田：今のお話を聞いて、程よい危機感を糧に、いろんな経験を積んで自分自身に磨きをかけていきたいと思いました。

では、次の質問です。4月から成人年齢が18歳まで引き下げられました。18歳、19歳というちょうど大学1年生くらいにあたる年

齢です。社会から大学生に求められていることが変化しているようにも感じるので、榊先生はどのようにお考えですか。

榊：これも良い質問ですね。日本では18歳の多くが高校を卒業し、ほぼ5割が大学生になり、2割弱は専門学校や短大に進み、約3割は直接に就職し、社会を支えます。18歳の若者は、かなりの判断力や責任能力を備えているにも拘らず、その多くが親などの支援の下で学び続けているというだけで、成人でないとするのは間違いだと思います。

勿論、人は18歳以降も成長し続けますから、成人とは、完璧な人間になったことを意味するわけではありません。知的判断力や社会の一員としての責任能力が一定程度の高さに達すべきであることを、主観的にも客観的にも認識することだと思います。今回は、社会が、18歳でそうした能力を持つべきであると判断したことにより、つまり、自分自身と国の行く末について、責任を持って欲しいと社会から言われているということです。

他方、責任だけでなく、選挙権なども与えられます。日本がどの方向に進んでいくべきかを判断する権利と責任が与えられます。是非、積極的に対応してほしいと思います。大事なことは、国や社会の行く末を決める選択に、皆が真剣に関わることです。昔は、若い人が、国の行く末について考え、行動する傾向が強かつ

たのですが、社会が整備されるにつれて、政治家に任せておこうという雰囲気が強くなってきたようにも思えます。

成人になったばかりの皆さんは、21世紀の世界の流れを決めていく当事者ですし、その結果や影響を受けざるを得ない立場にあります。そうした判断に、責任ある対応をするために、自分自身の学びについて、生き方について、政治への関与について、大学在学中に考えを深めてもらいたいと思っています。

将来の世界では、何が起きるか分かりませんが、皆さんには60年ほど前にケネディ大統領が残した言葉を贈りたいと思います。それは「人類が面している重要課題の大部分は人間自身が作り出したものであり、人間が工夫や努力をすれば解決できるはずのものである」という言葉です。この考えは、現代にも通じるものだと思います。問題解決の為に何を考えるか、決め、行動するのは全て人なんです。特に、今後の社会に長く関わっていく大学生の皆さんが、解決の鍵を握っていると思っています。

最後に奈良で学びたい、奈良女子大学で学びたいという学生に向けて一言お願いします。

榊：繰り返しになりますが、奈良は美しい自然と豊かな歴史や文化に恵まれており、実にありがたい場所なので、フル活用し学びや思索を深めてもらいたいと思っています。また、教育を大事にしてきた総合大学なので、自分の専門も大事にしながらも、他の分野の人たちとよく対話をして学びあい、分野の壁を超えて、視野を広げ、高めあってほしいと思っています。さらに、海外の人と交流し、機会があれば、異国を旅したり、留学や仕事を体験することで、広い世界の多様性

には奈良で女子高等師範学校が設立され、1900年頃に津田塾など私立の組織も誕生し、女性向けの高等教育が徐々に拡大していききました。特に、1948年に新制大学が発足し、大部分の大学では男女共学になったため、昨今は、大学生のほぼ半数が女性になっています。そんな状況の中で、女子大の存在意義は終了したという考えがある一方、社会の状況を考えると、時代の変化に際し、女子大が果たすべき役割は大きいという考えもあります。私は後者の考えです。

私がそう思うのは、1870年に米国で設立された Wellesley College などが、現在も女子大学として全米屈指の教育を進め、ヒラリー・クリントンや20年くらい前に国務長官をしたマデレーン・オルブライトなど、国家レベルで指導力を発揮する女性人材を送り出し続けていることに基づくものです。この大学は、奈良女子大学と同様、1学年が600人の小規模大学ですが、リベラルアーツカレッジとしては全米第3位の評価を受けています。日本よりも、女性の活躍機会が豊かな米国社会でも、今なお、女子大が重視され、存在価値があると考える人が多いのです。このことは、各国で性別や人種や年齢などの壁を克服し、多様性を掛け活用する努力をしているものの、今だ道半ばにあることを意味しているのではないのでしょうか。

新たな社会への対応力を高めると思っています。その中で、奈良女子大学は、大きなポテンシャルと役割を持っていると思います。

内田：私も、女子大の意義は多様性を生み出せる点にあると考えています。価値観は、置かれた環境の影響を大きく受けますよね。男女の中で培う価値観を他の人が生み出してくれるのなら、私たちは女性が多い環境ならではの価値観を社会に還元できたらいいと思います。

では、次の質問です。大きな声では言いにくいけれど、奈良女子大学は日本で2つしかない国立の女子大であるにも拘らず知名度が低い。奈良女子大学の知名度を上げるために魅力をもっと発信したいのですが、榊先生が考える奈良女子大学の魅力とは何ですか。

榊：これも良い質問ですね。実は私は、教育機関のランキングや知名度に、少し警戒心を持っており、振り回されないように注意しています。その理由は、国立大学附属学校とし

てはかなり知名度が低い名古屋大学の附属中等高等学校に6年間在籍した経験に因るものです。この学校は、進学指導にはさほど力を入れないため、知名度は低かったですが、先生方の指導がとてよく、生徒同士も暖かい人間関係を築き、その関係が続いています。無名でも理想的な学び舎であったため、感謝の念と誇りを今でも感じています。

日本では、メディアも一般社会も、高等教育機関に関しては、その実体については、かなり不勉強で、有名国立大学や大都市圏の大規模な私立大学と、有名大学への進学実績を誇る高等学校以外については、関心も知識もかなり乏しい状況にあります。他方、米国では、前述の Wellesley など、独自性の高い小規模大学の特色や教育内容に多大な関心が寄せられており、そうした健全な関心が大学の教育の質を高める推進力にもなっています。

学生の皆さんには、そうした状況も知ってもらい、世間的な知名度の低さについて焦らないでほしいと願っています。知名度より、奈良



■奈良カレッジ学問祭

学問の面白さや奥深さを感じることができる学術イベント。奈良女子大学・奈良教育大学の教員だけでなく、奈良国立博物館長、奈良文化財研究所長、奈良先端科学技術大学院大学長、そして構理事長も授業を公開予定で、ここでしか聞けない話が満載。2022年度は8月25～31日で開催。



■奈良カレッジ構築

法人統合によるスケールメリット及びシナジー効果を活かして、奈良県及び関西文化学術研究都市等の近隣地域に位置する研究機関、教育機関、企業、自治体等との連携・協働体制を構築し、それぞれの強みや人的・物的資源の交流による教育研究インフラの強化を図る試み。

を肌で感じとり、自分自身の発想と人生を豊かにするのに生かしてください。そうした姿勢で臨めば、未来社会を切り拓く先導者や推進者として活躍できると思っています。それをとても楽しみにしていますよ。

他方、ある程度は適切に広報活動も進め特色を伝えていかななくてはなりません。理事

学生記者の声



理事長先生ってどんな方なのだろうという純粋な興味と、そのような立場におられる方の考え方に触れてみたいという思いから、今回記者に立候補させていただきました。私は奈良女に入学してから、「今の時代に女子大って必要なの?」というような問いかけにモヤモヤを抱え、都市圏の大学に行った友人の話や聞く中で、奈良でいいのか、奈良女でいいのか立ち止まって考えることもありました。そんな中で今回このような機会を頂き、榊先生の価値観に触れ、肩の力がふっと抜けるような感覚を覚えました。学生である私の話に親身に耳を傾け、一緒に考えてくださる榊先生のお人柄に惹かれるとともに、そのような方が理事長であることをとても心強く思います。私にとって榊先生の言葉が、大学生活で自分を磨いていこうというモチベーションになったように、この記事を読んでくださった方の心に何か響くものがあつたら幸いです。

内田 小雪(うちだ こゆき) 文学部言語文化学科2年生 出身校:新潟県立新潟高等学校(新潟県)

Introduction to Master's Studies

大学院へ
ようこそ!

言語文化学専攻 ヨーロッパ・アメリカ言語文化学コース



文学部
言語文化学科
ヨーロッパ・アメリカ言語文化学コース
准教授

今野 弘章
この ひろあき



のかということを考えています。テーマが例外的である分、研究自体も手薄で、研究対象となる現象が身の回りにたくさんあります。その中から興味深いものを自分で見つけ出すという発見の喜びが大きな魅力です。

自分で見つけた現象が、まだ誰にも、あるいは十分には研究されておらず、さらに分析すれば面白くなるだろうという見立てが立ったときもとても楽しいです。その後、分析を経て見つけた例外現象の性質が先行研究の知見を裏付けたり、逆に疑いを投げかけたりするのですが、そのように先行研究と自分の研究の関連を見つけられることも魅力の一つですね。

も案外共通する点があつて、日本語と英語の垣根を越えた共通点が見つかったときなども、人間の言語の使い方に共通する仕組みに近づけたような気がしてとても面白いです。

Q 言語学を研究するやりがいは何ですか？

なんといっても、これまでに注目されていないような言葉の事実を発見、指摘してその分析を考えられることです。あと、私の行っている例外的研究は他に行っている方が少ないのですが、他の方が興味を持って下さり、研究上の繋がりが持たされたときもやりがいを感じます。これは言語学だけでなく、研究全般に通じるやりがいだと思います。

個人的なことでは、初めは自分がどうして言語の研究に興味があるのかわからなかったのですが、後々考えたときに、自分自身が言葉を使うのがあまり上手ではないという無意識の苦手意識から、かえって自分がいつかかき分けられないから知りたいという自然な知的欲求に従って言語を研究しているのかもしれない。こんな風に、研究と自分自身の関連が感じられるという面白いです。これは言葉という身近なものを研究しているから感じられたことなのかなと、とてもやりがいをおぼえましたね。

Q コースを目指す学生の皆さんにメッセージをお願いします。

大学院博士前期課程に進んで得られる専門的な知識や深く考える力は、学部とは段違いです。また、英語の教員を目指す方にとっては大学院博士前期課程では、教科の専門知識に加え、専修免許を取得するための資格も得られ、教員

Q ヨーロッパ・アメリカ言語文化学コースではどんなことが学べますか？

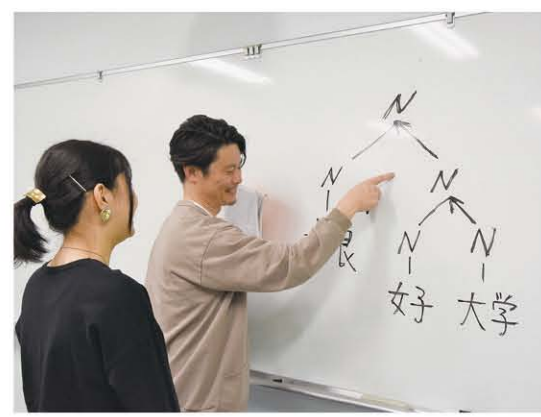
本コース全般としては、主にヨーロッパやアメリカで話されている英語、ドイツ語、フランス語を通じた、言語、文化、文学の研究について学ぶことができます。私が担当している英語学言語学の分野では、私たち人間がどのように言語を使うのか、聞き手としてどのように話し手の発した言葉の意味を理解するのかを、主に英語と日本語を対象に学びます。また、それらに関する理論をはじめとする、言葉を分析する上でのさまざまな視点をバランスよく学ぶことができます。大学院で言語を研究するということは、高校までの外国語学習のように、「言語を「知識」として吸収するのではなく、「研究対象」として、どうしてこのような表現があるのか、どのような表現はどのように成り立っているのかといった、「どうして」「どのように」を専門知識を駆使しながら深掘りしていくことです。

Q 現在、先生の研究されているテーマと、その魅力は何ですか？

最近ではこれまでの研究から英語にはあるけれども日本語にはないと考えられてきた現象が、もの見方を変えれば日本語にもあるのではないかと、このことに興味を持って研究をしています。例えば、英語における目的語というもの、多くの場合、動詞の目的語と捉えられますが、目的語の中には、動詞以外の要素との関連も考える必要があるものも存在することが分かっています。一方で、日本語における目的語は常識として、動詞の目的語だけで、英語にあるような動詞以外の要素の目的語は存在しないとみなされています。ですが、私は、英語で注目され

てきたものとは異なる表現のタイプに目を向けると、日本語にも動詞以外の要素の目的語というものが存在するのではないかと考えています。現在はこの考えを裏付ける事例を探しながら、その存在を明らかにしようとする研究を行っています。

私自身の研究は、言語学の中の「語用論」と呼ばれる領域に属するものです。語用論は「話し手が伝えたい意味を、話し手が発した言葉を通じて聞き手が理解できるのはなぜか」を研究する領域です。その領域内で、特に、日本語と英語の「文法的な例外」の使われ方に関心を持って研究に取り組んでいます。例えば、「mouse」という単語の複数形は不規則変化で「mice」となりますが、例外的に「mouses」という規則変化した形が許される場合があります。このような「例外」がいつの間にか意味で使われるのか、そこから言葉の研究一般について何が言える



になつてできる仕事の幅も広がります。

また、本コースではどの分野にも複数の名の専任教員がいますから、大学院生一人一人が研究の相談時間を長く設けてもらえるなど、手厚い指導を受けることができます。これは小規模大学である奈良女子の大学院ならではの魅力です。より多くの学生の方にこの魅力を活用してもらいたいと思います。多くの学生が来てくれるれば、大学院生と教員の繋がりに加え、大学院生同士の様々な繋がりも生まれ、例えば授業外での勉強会のような学びの機会も増えます。みなさんにはぜひ積極的に大学院に進学し、大学院生同士のいい循環をどんどん作り出していつともええららと思えます。

学生記者の声



私は文学を学んでいるのですが、普段は触れない言語学について何えてとても興味深かったです。高校までの勉強とは異なる、大学で言語を学ぶということ、その楽しさややりがいがこの記事を通じて少しでも皆さんに伝われば幸いです。

横江 萌夏(よこえ ももあき)
文学部言語文化学科4回生
出身校:富山県立富山高等学校(富山県)

Introduction to Master's Studies

大学院へ
ようこそ!

化学生物環境学専攻 化学コース



理学部
化学生物環境学科化学コース
教授

吉村 倫一
よしむら ともかず

Q 化学生物環境学専攻のカリキュラムについて教えてください。

化学生物環境学専攻は化学コース、生物科学コース、環境科学コースに分かれており、それぞれが連携しながら、研究を遂行するための能力や基礎学力を身に付けるために、教養科目群と専門群の二つを軸としたカリキュラムを提供しています。例えば化学コースの学生が必ず履修する「化学のための研究倫理」という科目では、研究不正を防ぐための知識を習得したり、化学をはじめ自然科学を対象とした研究では防災や安全も必要になりますので、その教育であったり、さらに、論文投稿や学会発表、企業との共同研究に必要な倫理を学びます。教養科目群の中には「有機化学概論Ⅰ・Ⅱ」、「物理化学概論Ⅰ・Ⅱ」、「無機化学概論Ⅰ・Ⅱ」など、学部で化学全般に関する基礎的内容の復習から大学院の研究に必要な基礎的な内容の科目を設定しています。専門科目群は、自分の所属するコースの科目だけでなく、興味に応じて他コースの科目も履修可能になっています。

Q 化学生物環境学専攻の特色や強みは何だと思いますか。

就職率、学部から大学院への進学率が共に高いという点です。特に化学コースは例年、6割から8割の高い進学率を誇っています。理学部は、学部生のうちは座学中心で基礎



吉村先生の研究成果が活用されているシャンプー

をみっちり学ぶことが中心になります。大学院では実験や理論系など実際に手を動かして研究を進めることが多くあります。近年は六年貫教育プログラムの導入もあり、学部生のうちから大学院の授業にも触れられるようになりました。この制度によって今後大学院への進学率がさらに高くなることも期待されます。

就職に関しては、大学院卒と学部卒では職種がかなり変わります。特に研究・開発職に就きたいと思った場合は、大学院進学を必須とする企業も多くあります。その点から見ると、化学生物環境学専攻を卒業した学生は、ほぼ希望通りの研究開発職に就いて、大学院での研究を通して培ったスキルを發揮し、社会で活躍していると思います。また、博士後期課程に進学する学生も毎年数名いますし、卒業生が就職後も、博士後期課程に入學し、平日は会社で仕事をしながら週末や長期休暇の間に大学で研究や論文執筆を進めている方もいます。このように、就職後も研究室とのつながりが途切れないのも大きな特徴です。これまでは博士後期課程に進学したくても金銭面の問題で断念する学生もいましたが、近年は「奈良女子大学博士号取得支援のフェローシップ」という博士後期課程に進む意欲のある学生を経済的に支援する制度も新設され、今後はもっと博士後期

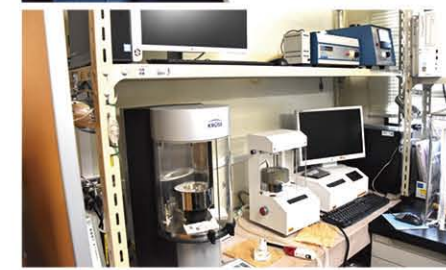
課程への進学がしやすくなるのではないかと期待しています。

また、化学生物環境学専攻では教員一人につき数名の学生という少人数指導が基本で、実験や実習を通して就職に必要な素養を身に付けていくことが可能です。各研究室の教員と相談しながら研究テーマを設定し、自由に可能性を広げられかつ丁寧に指導してもらえらというのも、奈良女子大学の少人数指導ならではの強みではないでしょうか。

Q 化学コースや吉村先生の研究について教えてください。

化学コースは、物理化学、有機化学、無機化学の大きく三つの教育研究分野から成り立っており、私は物理化学の分野に身を置いています。ここでは、分子や分子集合体の構造、性質などを電子や原子の視点で研究する分野です。私は特にコロイド界面化学の専門分野で界面活性剤や高分子、金属ナノ粒子、イオン液体といったソフトマターの構造やその性質を研究しています。理論分野では、コンピュータを用いたシミュレーションにより研究を展開している教員もいます。私は研究室にある機器を使って実験を行い、データ分析によって分子集合体や界面の構造、性質を調べています。また、学生を連れて学外で実験をすることもあります。例えば兵庫県にある大型放射光施設(SPring-8)や茨城県にある日本原子力研究開発機構内の原子炉施設(JRR6)や大強度陽子加速器施設(J-PARC)などの施設に年数回行き、実験することもあります。これらの施設での実験は誰でもできるわけではなく、せんので、学生には研究活動において、いい経験となっています。

他にも、企業との共同研究を行うこともあります。共同研究と聞くと応用的な研究を思い浮かべるかもしれませんが、私の研究室ではあくまで基礎研究を中心として行っています。例えばクラシエホールディングス株式会社との「マー&ミー」というシャンプーに使われている界面活性剤は、研究室で学生と一緒に



研究設備の様子

基礎研究を中心として行っています。例えばクラシエホールディングス株式会社との「マー&ミー」というシャンプーに使われている界面活性剤は、研究室で学生と一緒に

機化学の大きく三つの教育研究分野から成り立っており、私は物理化学の分野に身を置いています。ここでは、分子や分子集合体の構造、性質などを電子や原子の視点で研究する分野です。私は特にコロイド界面化学の専門分野で界面活性剤や高分子、金属ナノ粒子、イオン液体といったソフトマターの構造やその性質を研究しています。理論分野では、コンピュータを用いたシミュレーションにより研究を展開している教員もいます。私は研究室にある機器を使って実験を行い、データ分析によって分子集合体や界面の構造、性質を調べています。また、学生を連れて学外で実験をすることもあります。例えば兵庫県にある大型放射光施設(SPring-8)や茨城県にある日本原子力研究開発機構内の原子炉施設(JRR6)や大強度陽子加速器施設(J-PARC)などの施設に年数回行き、実験することもあります。これらの施設での実験は誰でもできるわけではなく、せんので、学生には研究活動において、いい経験となっています。

Q 大学院で「化学」を学ぶ意義は何でしょうか。

理学は、おもに自然の原理を追究する「基礎」の学問分野になります。例えば界面活性剤は洗剤や化粧品に含まれている物質ですが、企業がそういった商品を開発するとき、この界面活性剤の分子集合体の構造や界面での性質を知る必要があります。我々は理学という観点で、商品化する前の物質の基礎的な性質や構造を研究しているわけですが、この基礎の部分がないと、ものづくりは発展していきません。その意味で、大学院で行う「化学」の基礎研究は、ものづくり社会との懸け橋として大いに貢献していると思います。将来、就職して応用研究や製品開発に携わるとき、化学の基礎的な知識やアカデミックな視点を大学院でしっかりと学ぶことは、大変意義のあることです。

Q 大学院を目指す学生にメッセージをお願いします。

大学というのは自由に学ぶことができる場所です。勉強はもちろん、それ以外でも色々楽しんでほしいと思います。学部二回生の時間に余裕のあるうちは特に、基礎的な科目や実験、実習をきっちり履修しながらアルバイトや

サークルなどにも積極的に参加して大学生活を楽しんでほしいと思います。学部四回生と、その先にある大学院進学後は、どの研究室でも「分からないことを解き明かす」という楽しい研究が待っています。もちろん、研究の過程には思ったような成果が出なかったり、行き詰まったりといった辛く厳しい壁にぶつかることもよくあります。しかし、その壁をどう突破するか時間をかけて悩み、考えた時間は必ず報われるのが研究というものです。

化学生物環境学専攻には、教科書には載っていないような刺激的な体験が待っていますので、少しでも興味のある方はどんどん進学してほしいと思います。

学生記者の声



大学での研究が何の役に立つのかと口酸っぱく言われる今日ですが、基礎研究の重要性を再確認できる貴重なお話を聞くことができました。研究は緑の下の方を持ち、それは理系も文系も同じだと思います。今後はもっと大学院進学が盛り上がっていくといいなと思います。

佐藤 さくら(さとう さくら)
大学院人間文化総合科学研究科
博士前期課程 言語文化専攻2年
出身校:宇都宮中央女子高等学校
(現:宇都宮中央高等学校) (栃木県)

笹倉 秀夫著 『丸山真男論ノート』 生活環境学部 伊藤 美奈子先生

◎本と出会った時期、経緯について教えてください。



この本に出会ったのは、大学院時代のことでした。元々高校の国語の教師をしており、不登校の生徒への支援の仕方に悩んだ時に読んだ河合隼雄著『新しい教育と文化の探究』（創元社）に感銘を受け、直接著者に手紙を書き返事をもらい、それがきっかけで臨床心理学の道に進みました。大学院に進学し、個人化と社会化という相反する2つの過程が人格形成においてどのように分化、統合されるのかについて研究を進めていました。しかし、博士論文執筆にあたり、データを理論にまとめる過程で行き詰まり、大変悩んでいました。そこで、気分転換に書店を訪れ、専門である臨床心理学とは無関係のコーナーをブラブラと歩いたのです。その時、この本に出会いました。

◎この本が「運命」である理由をお聞かせください。

もちろん本が声を発するわけがないのですが、まるで本に呼びかけられたかのような経験でした。たくさん並ぶ本の中で、なぜこの一冊に惹きつけられました。その内容は、学んでいた心理学とは異なる、政治思想家である丸山真男の理論や思想についての論説でした。しかし、その理論の組み立て方、展開の仕方、考えなどが大いに役立ち、行き詰まっていた論文が一気に進んだのです。出会いは運命的なものでしたが、全力で悩み、全身で求めていたからこそ引き寄せられたものかもしれません。

◎この本を通じて若者たちに伝えたいことは何でしょうか。

ピンポイントで興味のあることだけ調べたり読むだけではなく、時には視野を広げて見ることも大切だということですね。本もそうですが、ネットを使えば自分の欲しい物だけが簡単に手に入る今の時代だからこそ、その隙間にあるメッセージを受け留められる余裕を持ちたいものです。皆さんも時には書店や図書館をゆっくり歩いてみてはいかがでしょうか。本から声が掛かるかもしれません。



樋渡 宏一著 『性の源をさぐる—ゾウリムシの世界—』 理学部 杉浦 真由美先生

◎本と出会った時期、経緯について教えてください。



奈良女子大学理学部生物学科の4年生だったときでした。当時は高校の先生を目指していました。卒業研究の勉強の参考に研究室の本棚から何気なく手に取った一冊が、この本でした。その内容は、「1940年代の生物学の研究が一般的にあまり認められていなかった時代から40年間、セントラルドグマという生命の基本原則が提唱されるなど、生物学が大きく動いてきた時代をゾウリムシと共に歩んできた著者の研究史」。ゾウリムシという単細胞生物の研究を通して生物の「性」を考えるという専門的な内容以上に、「研究という世界を歩いた旅人の旅行記みたいなもの」と表現している著者の「研究史」としての内容に衝撃を受けました。

◎この本が「運命」である理由をお聞かせください。

この本は、未知の世界を教えてくださいました。戦後間もなく、情報や研

究材料さえも乏しい困難な状況を行動力と研究にかける熱意で自ら切り開く姿。国内外の時代の変化や生物学の歴史的变化の中での研究の栄枯盛衰。人間味あふれる研究者たちとの出会い。こんな厳しくて面白い世界があるのかと研究の世界に興味を持ち、その後の道を決めるきっかけになりました。大学院時代には、学会で樋渡先生をはじめ、本に登場する先生方に実際にお会いし、自分の研究成果に対して熱い議論をしてもらおうという経験も。それは、憧れであった本の中の世界と現実の世界が重なる嬉しい出来事で、より研究の道へと背中を後押ししてくれました。

◎この本を通じて若者たちに伝えたいことは何でしょうか。

皆さんにとって良い本であるかはわかりませんが、この本は私にとっての運命の一冊です。本は未知の世界や現実では体験できないことを教えてくださいます。行動が制約される今だからこそ、興味のない分野でも手に取ってみて、ひとりひとりの運命の一冊を見つけてもらえたら幸いです。



学生記者の声



文学部・工学部担当

近藤 舞子(こんどう まいこ)

文学部言語文化学科4回生
出身校:徳島県立徳島北高校(徳島県)

本との出会いが人生を決めることがある、ということをお話から実感しました。これこそ「運命の1冊」だと思います。この記事が誰かの「運命」のきっかけになると嬉しいです。



理学部・生活環境学部担当

高木 理華子(たかぎ りかこ)

文学部人間科学科3回生
出身校:愛知県立岡崎高等学校(愛知県)

「運命」と聞くと偶然の出会いというようなイメージを持っていました。しかし、今回の取材で感じたことは、「運命の一冊」はそこに至るまでの努力や悩みが必然的に引き寄せるものだと思います。私もあまり興味の無い分野の本にも挑戦して、「運命の一冊」を探しに行きたいです。



あなたの運命の一冊

先生に聞いた!

“ふとした瞬間、目に留まった本”...それは、そのとき持っている関心や悩みを映しているかのよう。本企画では「自分の人生を大きく変えた、若者たちに読んでほしい本」について、各学部の先生にインタビュー! あなたの運命も動かす一冊との出会いが待っているかも...?!

スティーブン・R・コヴィー著 『7つの習慣』 工学部 駒谷 昇一先生

◎本と出会った時期、経緯について教えてください。



私はもともとIT企業でプロジェクトマネージャーやコンサルティングの仕事をしていました。そこで会社の人材育成に携わる機会があり、研修の内容を考える仕事を経験しました。その時偶然、『7つの習慣』をテーマにした研修があることを知って、興味を持ったのがきっかけです。本を読んで実際に研修を受けに行きました。

◎この本が「運命」である理由をお聞かせください。

『7つの習慣』は人生の岐路において助けになってくれた本です。なにか自分が悩んでいるときに、仕事、人間関係、あるいは進路について悩んでいるときに、パラパラと読むと引っかかる部分が見つかるんですよ。そこに人生のヒントが隠されている。そういう不思議な本なんです。

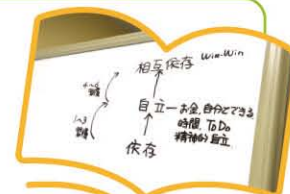
私はもともとIT企業でプロジェクトマネージャーやコンサルティングの仕事をしていました。そこで会社の人材育成に携わる機会があり、研修の内容を考える仕事を経験しました。その時偶然、『7つの習慣』をテーマにした研修があることを知って、興味を持ったのがきっかけです。本を読んで実際に研修を受けに行きました。

読み手と一しょに成長していける本なんです。

そうなんです。その時その時に必要な言葉をこの本が与えてくれる。若い人たちは自立した状態になるための第1~3の習慣をまず身につけてほしいです。

◎この本を通じて若者たちに伝えたいことは何でしょうか。

「言い訳人生」を送らないことです。幸せかどうかは他人の価値観では計れないもので、その人の心の持ち方で決まるものです。「言い訳人生」、つまり他責人生を送っていると、できないことをすぐにあきらめてしまっ、自分が不幸なことをすべて環境のせいにするようになってしまう。そうすると自分の人生を自分で歩んでいることにはならないですね。就職活動では「会社の名前が有名だから」とかではなく、「自分はその会社で何をしたいのか」を考えてほしい。大学を選ぶときにも偏差値で大学を選ぶのではなく「この大学でこういうことを勉強したい、これをしてから大学に行くんだ」と考えること。これが主体的に生きるということです。人生に目的をもって歩むということ若い人たちはぜひやってほしいと思います。



シャーロット・ブロンテ著 『ジェイン・エア』 文学部 市川 千恵子先生

◎本と出会った時期、経緯について教えてください。



出会ったのは中学1年生だったと思います。子どもの頃気管支喘息でよく寝込んでいて、本を読むことが気分転換になっていました。中学生になり本屋に立ち寄った時に、新潮文庫の『ジェイン・エア』に出会いました。本の裏表紙をみて「小さい女の子が自分の道を切り開いていく」という部分が自分の中にすんなり入っていったのだと思います。この小説がきっかけとなってイギリス文学に興味を持ち始めました。

◎この本が「運命」である理由をお聞かせください。

大学生、大学院生の時にシャーロット・ブロンテの伝記を書いた同時代の作家エリザベス・キャスケルを研究してきたのですが、それもシャーロット・ブロンテが導いてくれたことだと思います。『ジェイン・エア』は、先生にとっての教授人生の原点と言えますね。

『ジェイン・エア』に関しては英語でも日本語でも論文を書いています。そのうちの一篇はイギリスの出版社が刊行している国際学術雑誌に掲載されました。それを読んだアメリカの研究者から三年前にニュージーランドの国際学会で共同発表のお誘いを受けたこともあり、本当に活動の幅を広げてくれた作品であると感じています。

◎この本を通じて若者たちに伝えたいことは何でしょうか。

主人公は孤児という社会的にも経済的にも脆弱でありながら教育を受け、その境遇から抜け出すという努力をしています。みなさんには自尊心や自立心というものを彼女から見出してもらえると嬉しく思います。それから設定上は平凡な容姿の女性である主人公が、実は二人の男性から求婚されているのも面白いことだと思います。どちらの男性を選ぶかによって主人公の生き方が見えてくるというのも、後世のドラマのプロットやヒロインの造形に影響を与えているので、様々な見方や楽しみ方が潜んでいます。

文学だけでなく、映像や舞台芸術などに興味のある学生にもぜひ読んでいただきたい1冊ですね。





香川県支部 支部長 中西 公子
(1981年 昭和56年 文学部教育学科体育学専攻卒業)

香川県というよりも「うどん県」と紹介したほうが最近なじみ深いでしょうか？
会員数300名の香川支部です。卒業生には地元で教員として勤める方が多く、退職後も互いのつながりが強いのが特徴と言えます。しかしながら他の都道府県と同様に、若い方の入会率が低かったり、総会への参加者数が少なかったりという悩みもあります。どのようにして若い方々の入会率を上げたらよいのか、より魅力的な総会となるよう、どのような内容を組み込んでいけばよいのか、手探り状態で進んでいます。

毎年6月の第3土曜日を総会開催日と定めて開催しています。幹事団は卒業年次別で、それも少し年齢の高い卒業生と、若い卒業生との組み合わせで行っています。毎年11月に送付する総会報告書に、幹事表を同封して知らせる仕組みを取っており、それを見て、「そろそろ幹事となる年が近いので、総会の様子を見てみましょう。」と参加していただける方もいます。

新型コロナウイルス感染症の影響でここ2回は書面開催となっています。「来年こそはお目にかかれることを祈っています。」この文章を2度も続けて使用することになってしまいました。今年、令和4年こそはお目にかかれることを信じて、準備を進めています。

今回は、私達、昭和56年卒業、ならびに平成8年卒業生が幹事を務めた平成30年度の総会の報告をさせていただきます。この年には藤原素子副学長がご参加下さり、「奈良女子大学の現状について」お話をいただきました。大学の組織改編の話、寮が一人部屋になった話等、変わりゆく奈良女の話がうかがえ、懐かしさと時代の流れを感じた時間でした。

▶今年(令和4年)に卒業60年になる、香川支部の大先輩、藤井和子さんの著書をご紹介します。
藤井さんは小豆島出身、現在は東京都在住。編集者としてお勤めされていた頃から20年余りをかけ全国の語り部を訪ね歩き、収集された民話を、取材の様子も併せて「妖怪民話…聞き歩き」として一冊にまとめられました。



平成30年度総会(藤原素子副学長を囲んで)



藤原素子副学長から大学の現状についてのお話をいただきました

「なでしこ基金」へのご協力ありがとうございます

皆様方によるなでしこ基金へのご理解のもと、令和3年4月1日より令和4年3月31日までの1年間に、27,035千円(古本募金618千円を含む)のご寄附をいただきました。心から、温かいご支援とご協力に感謝申し上げます。

お寄せいただきました寄附金は、次のとおり、なでしこ基金による様々な事業の貴重な資金として、有効活用させていただきました。

【令和3年度支出状況】

	金額(千円)	実施内容
学生育英事業	11,398	学長賞20名 稲葉カヨ記念教育研究奨励賞2名 修学支援特定事業 研究活動支援等
国際交流事業	5,155	留学生奨学金等
緊急学生生活支援事業	1,327	なでしこミールサポート事業等
学生寄宿舎整備事業	146,051	学生新寮建設等
その他	339	AED附属品等
合計	164,270	

Club/Circle # NWU

PA☆BO メンバー数:12人

活動内容:K-POPアイドルのカバーダンスサークルです!学内イベントのステージ発表や、外部イベントにも参加しています。

◎K-POPダンスの魅力を教えてください! K-POPの曲は歌詞がわからなくても一度聞けばつい口ずさんでしまうものが多いですが、ついつい踊りたくなるようなダンスも多いです!たくさんの人を虜にしてしまう魅力があります!

◎入部した決め手は何ですか? K-POPが好きだったのと、もともと高校で少しダンスをしていたこともあって大学でもしたいなと思い入部しました!K-POPをあまり知らなくてもかわいい衣装が着たい!という理由で入った方もいます!

◎PA☆BOに入って一番うれしかったことは? 友達ができたとです!先輩も後輩も仲がいいので楽しく練習でき、練習外でも遊んだりお話ししたりします。コロナ禍でなかなか大学で友達ができなかったのでとても嬉しいです。



#ステージで踊りたい #キラキラしたい

♡お気に入り



活動をもっと知りたい方はこちら!

ラクロス部 メンバー数:13人

活動内容:週に4回、大学内のグラウンドにて活動を行なっています。全員が初心者で、先輩が1から丁寧に教えます!

◎ラクロス初心者でも参加できますか? 全く問題ありません!今いる部員は全員大学からラクロスを始めました。大学入学まで運動部の経験がなかった部員もいます。スタートラインが同じなので、自分の頑張り次第でどこまでも行けます!

◎ズバリ! ラクロスの魅力について教えてください。 連携が大事なスポーツで、みんなで意見を出し合いながらいいプレーを作っていくところです。全員で声を掛け合いながらプレーをして、うまく行ったときの達成感はとても大きいです!

◎今後の目標について教えてください! 自分たちのラクロスをすることです。試合は他大学との合同チームでの出場となりますが、中でも自分たちがしたいプレーをして、勝利することが目標です。そのために日々練習しています!



#全員初心者 #新しい挑戦 #最高の仲間

♡お気に入り



入部希望の方はこちら!

演劇部 メンバー数:12人

活動内容:年に4回公演を行っていて、台本の読み練習、動きの練習、演技に関するゲームや季節イベントをしています。劇団名は「劇団いちご大福」です。

◎演劇部に入ったきっかけは? 高校生の時に観た先輩達の劇が脚本も音楽も素晴らしいと心惹かれました。しかし、自分たちの代はコロナ禍であったため、劇が行えず、大学では高校でやってみたいことをしたい!と思い、演劇部への入部のきっかけになりました。

◎今まで演じたキャラで一番好きなキャラは? 生徒会を題材にした劇で演じた「書記」役がとても好きでした!先輩を敬愛するオタク気質な所と、上品なお嬢様な感じが混ざっていて、可愛げがありつつ不思議な柔らかさのあるキャラに私も癒されました。

◎入部してから一番印象に残っていることは? 動画配信の形で作品を完成させた時です!何度も撮り直しができるからこそ、自分たちの満足のいくものを考え続け、一から編集を勉強してくれたメンバーの力も合わさり、誇れる作品ができました!



#よく笑う個性派集団 #なんでもチャレンジ #いちご一会

♡お気に入り



活動をもっと知りたい方はこちら!

軽音部 メンバー数:45人

活動内容:軽音楽部は、バンドを組んで演奏会やライブを行うことをメインに活動しています!

◎バンドメンバーはどうやって決めますか? 奈良女の軽音楽部は固定バンド制のため、同生同士でバンドを組みます。希望パートが被ったら話し合いで平和に決めます。イベントの際は普段と違うメンバーで企画バンドを組むことも!

◎軽音部で良かったと思うことはなんですか? バンドを組んで楽器を演奏しライブハウスでステージに立つという、一人ではできない経験ができることです。聞く音楽の幅が広がったり、楽器が一生の趣味になったりする点も魅力!

◎他大学や外部とのライブもありますか? 奈良県下にある大学の軽音サークルが集まるNara Sonicという企画や、関西最大級の学生イベントであるSOUND SHOCKなど、他大学や外部との交流ライブがあります!コロナ禍の今年はNara Sonicのみに参加予定です。



#軽音 #バンド #初心者大歓迎

♡お気に入り



活動をもっと知りたい方はこちら!

Campus Topics

■ ネーミングライツ制度をはじめました

奈良女子大学施設のネーミングライツ(施設命名権)を2社の企業が取得し、ネーミングライツ・パートナーとなっていただきました。ネーミングライツ事業は、命名権を付与した事業者からの命名権料を活用して教育研究環境の向上を図るものです。

本学初のネーミングライツ・パートナーとなったのは、住友重機械工業株式会社で、学生に人気のカフェとして利用されている「総合研究棟S棟1階ラウンジ」の命名権を取得いただきました。次いで、DMG森精機株式会社は、工学部学生の教育・研究の場である「総合研究棟H棟」の命名権を取得いただきました。施設の名称はそれぞれ、「SHI Café Dear deer!」「DMG MORI棟(工学系H棟)」となっています。



住友重機械工業株式会社とのネーミングライツ取得記念式典



DMG森精機株式会社との包括協定締結の様子

● 2021年度学生記者活動を終えて ●

2021年度の広報誌作成に協力頂いた学生記者の皆さんよりコメントを頂きました。学生記者は随時募集しております! ご興味のある方は、広報・基金係までご連絡下さい。



末吉 美帆(すえよし みほ)

文学部言語文化学科3回生
出身校:鹿児島県立鶴丸高等学校(鹿児島県)
学生記者として自分の専門分野(文学)以外の教授とお話できたことは自分にとってとても大きな経験です。今後も、受験生の方や一般の方が「ならじよtoday」を通して奈良女に興味を持ってもらえることを願っています。

36号(2021年7月発刊) 唯一無二の工学部へ~新時代・デジタル時代に「先駆ける」奈良女に~

37号(2021年10月発刊) 海の宝石・ウミウシと対話して~「好き」を発見し、追究できる奈良女とは



勝島 美侑(かつしま みゆ)

生活環境学部生活文化学科3回生
出身校:天王寺高等学校(大阪府)
記者活動を通して奈良女子大学の良さを再認識できました。大学の魅力は通う学生によってよりリアルに伝えられるものだと感じます。「ならじよToday」で奈良女子大学に興味を持っていただけたら嬉しいです!

37号(2021年10月発刊) 奈良女三姉妹&母インタビュー



那須 博美(なす ひろみ)

理学部化学生物環境学科環境科学コース4回生
出身校:四天王寺高等学校(大阪府)
学生記者の活動を通して、今まで知らなかった奈良女子大学のことをたくさん知ることが出来ました。自分の書いたものが記事になる貴重な体験ができて良かったです。

36号(2021年7月発刊) 新学生寮の建設について~学生による、学生のための寮~



高木 美沙(たかぎ みさ)

文学部人文社会学科3回生
出身校:金沢泉丘高等学校(石川県)
他学部の先生にお話を伺えたのですが、初めて聞くことも多く、改めて学ぶ楽しさを知ることができました。学生記者の活動を通して、じっくり先生にお話を伺い、また質問するという貴重な体験をさせて頂き、感謝しています。

36号(2021年7月発刊) Introduction to Master's Studies 石坂 友司准教授



簡泉 佳子(つづみ かこ)

理学部数物化学科物理学コース4回生
出身校:同志社高等学校(京都府)
学生記者を通じて各研究室がどのようなことに取り組んでいるのかを知れて新鮮でした。それぞれの研究室の色は学生と教員が作るものですし、研究室ごとによっても異なると思います。様々な研究室の雰囲気が見れるのも『ならじよToday』のいいところだと思います。奈良女は素敵な大学です。学生記者をさせていただきありがとうございました。

36号(2021年7月発刊) Introduction to Master's Studies 高橋 智彦教授、大木 洋助教

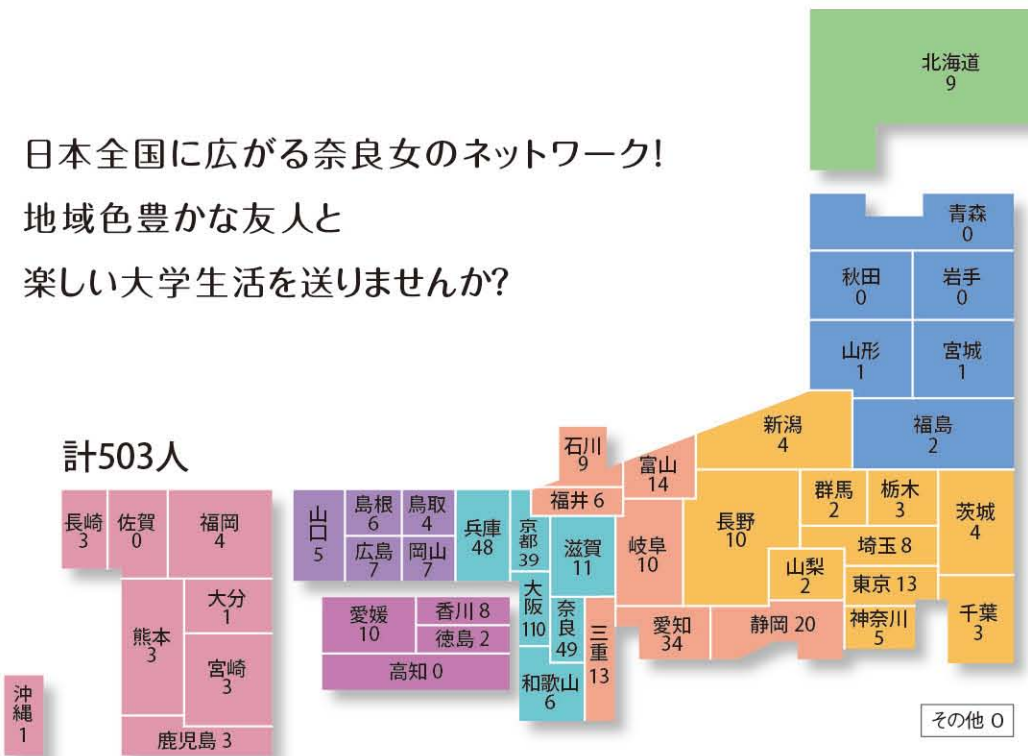


藤川 諒子(ふじかわ りょうこ)

文学部人文社会学科2回生
出身校:徳島県立富岡東高等学校(徳島県)
それまでかわりを持ったことのない先生に取材をする機会をいただき、非常に興味深いお話を伺うことができました。先生の知識の豊富さ・考えの深さに圧倒され、改めて学問とは面白いものだと思います。

37号(2021年10月発刊) Introduction to Historical Studies Course 西谷地 晴美教授

学部入試(一般選抜(前/後)、学校推薦型選抜、総合型選抜)都道府県別入学者数[R4年度]



奈良女子大学の就職支援

就活は3回生の冬から本格スタートとなりますが、インターンシップ・各種セミナーへの参加など、3回生の春からしっかりと準備していく必要があります。奈良女子大学では就職活動の支援を目的に、主に以下のサポートを行っています。他にも学生個々人の状況に合わせ、柔軟にサポートをしています。

- 進路で迷った! → 1対1の個別相談を予約しよう!
- もっと色々知りたい! → セミナーに参加しよう!
- 情報を集めたい! → キャリアサポートルームを利用しよう!



個別相談



セミナー



サポートルーム

令和3年度の実績(詳しくはQRコードより)



主な就職先 三菱電機(株) 清水建設(株) ダイキン工業(株) マイクロンメモリジャパン合同会社 (株)LITALICO 京セラコミュニケーションシステム(株) パナソニック(株) ローム(株) 福栄鋼材(株) アクセンチュア(株) 関西電力(株) 京セラ(株) (株)クボタ 住友電気工業(株) 積水化成工業(株) 東海旅客鉄道(株) 凸版印刷(株) 日産自動車(株) (一財)日本食品分析センター (株)日立製作所 (株)不二家 西日本電信電話(株) 全国健康保険協会 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 日本銀行 富山県教育委員会 大阪府教育委員会 京都府教育委員会 人事院 家庭裁判所調査官補 奈良県 大阪府 兵庫県 奈良市 大阪市 堺市



あの頃の奈良女へタイムスリップ！！

=本学自慢の名物教授 第8回 的場輝佳 編=



◆ 的場先生と奈良女子大学

的場先生は奈良女子大学において生活科学を専門とし、「食品学」と「調理科学」をキーワードに教育・研究に向き合っていました。生活科学が担う食物の領域とは、生活者（消費者）の立場に立ち生活に拠点を置いた分野の教育・研究で、日常の食生活に係わる“食物の栄養性、安全性、嗜好性、保存性、献立設計など”についての領域です。

幼少期から理科が好きで、その道を学ぶために大学へ進学した先生は、2年生の学年末に病気で寝込んだことをきっかけに、健康や食、栄養学などが大切だと考え始めたそうです。そこで「食物と栄養について勉強しよう」と心に決め、タンパク食糧の基礎・応用研究を中心に、生産者（製造者）の視点から研究を行っておられました。その後、奈良女子大学の家政学部（現在は生活環境学部）への赴任を決められたのは、研究だけでなく、教育をしてみたいという気持ちもあったからだということです。そして、奈良女子大学家政学部へ赴任した先生は、生活の中の食物として、料理・調理を科学的な視点で見つめ直し、研究を始めました。

奈良女子大学へ赴任後、初めにされた研究は味、特にうま味についてです。そこで東海道のうどんのだしを分析して、地域性を見ようと試みしました。奈良女子大学生の出身地は全国的に広く分布しています。彼女たちの力もあり、うどんのだしを集めることができました。その結果、味の地域性に関する客観的なデータとして新聞やテレビでも取り上げられ、現在も認められているそうです。

先生は、奈良女子大学へ来て一番良かったことは、調理を研究する機会や人々との接点に恵まれたことと、大学が小規模だからこそ他学部の先生とも密接な交流があったことだとお話してくださいました。他の専門分野を持つ先生方と交流することは、自分の持つ世界を基礎としながら違う世界をのぞくことができ、研究が大きく開けて楽しくなる気がするとおっしゃいます。文学部の先生とは、タクラマカン砂漠へ2週間、学術探検に科学分析の助言役として加わり、実際に自分の目で見て世界を感じるという経験は大そう勉強になったというお話、また、理学部の先生と共同研究を行い、学問領域を超えた交流が双方の世界を広げているお話が伺えました。

◆ 百年ピアノ

先生は奈良女子大学に21年間在籍され、その最後の3年間は附属図書館長と記念館長を務められました。就任時に当時の学長丹羽雅子先生からの依頼で、記念館に飾ってあったという古い「温故知新」の額縁

昭和17年	奈良県橿原市八木町に生まれる
昭和36年3月	PL学園高等学校 卒業
昭和42年3月	京都大学農学部農芸化学科 卒業
昭和44年3月	京都大学大学院農学研究科修士課程 修了
昭和47年7月	京都大学大学院農学研究科博士課程 修了
昭和47年6月	京都大学食糧科学研究所助手
昭和50年4月	Vanderbilt大学医学部博士研究員(昭和51年5月まで)
昭和55年4月	京都大学食糧科学研究所助教授
昭和60年4月	奈良女子大学家政学部助教授
平成3年4月	奈良女子大学家政学部教授
平成5年10月	奈良女子大学生生活環境学部教授
平成10年4月	奈良女子大学評議員
平成11年4月	奈良女子大学大学院人間文化研究科教授(学部併任)
平成15年4月	奈良女子大学附属図書館長
平成18年3月	定年退職
平成18年4月	奈良女子大学名誉教授
平成18年4月	関西福祉科学大学健康福祉学部教授(平成25年3月まで)

(元)日本調理科学会会長、日本家政学会副会長。(現)日本料理アカデミー理事、奈良の食文化研究会理事、大阪府高齢者大学校講師、西宮市生涯学習大学講師など。

を探ることになり、その際、倉庫で偶然見つけたのが百年ピアノ。百年ピアノとは、現在記念館に置かれている、その名の通り100年以上前に日本で製造されたグランドピアノです。布をかぶった状態で発見されたピアノは、原型を留めているものの内部が傷んでいたため、京都の名工が部品を交換し調律して見事に生き返り、定期的にコンサートも行なわれています。

実はコーラスがご趣味の先生ですが、大学時代に活動していたコーラスを再開したのは、奈良女子大学就任後に文部科学省関係の仕事で偶然再会した昔の合唱仲間からのお誘いがあったからだそうです。もしコーラスをしていなければ、楽器にそれほど興味を持っておらず、百年ピアノを発見しても修理しなかったかもしれないと笑っておられました。今もコーラスの活動は続けておられるそうです。

◆ 的場先生からのメッセージ

何事にももっと打って出た方が良いと思います。もったいないです。意見を述べ行動すると責任が伴います。それを避けずに行動するパワー・習慣をつけるということに、奈良女子大学の存在意義があるような気がしています。

頑張ってほしいんや、もっと。

学生記者の声



先生のお話を伺っていると、人との出会い・付き合いが思いがけないところで思いがけないことにつながることもあるのだと強く感じました。記事には書ききれませんが、言われたこと・読んだことをそのまま受け入れるのではなく、一度止めて考えてみるということを学びの姿勢としておっしゃっており、それが心に残っています。奈良がいかに歴史的背景をもち文化的

に恵まれた土地かということも再認識し、残りの大学生活のうちに、古都奈良ならではの行事や史跡を実際に訪ねようと思えました。

藤川 諒子(ふじかわりょうこ)

文学部人文社会学科3回生

出身校:徳島県立富岡東高等学校



編集・発行/奈良女子大学広報企画室 藤原素子、石井邦和、今野弘章、吉岡英生、吉田伸治、長谷圭城

編集責任者/室長 藤原素子 連絡先/奈良女子大学総務課

〒630-8506 奈良市北魚屋東町

Tel 0742(20)3220 Fax 0742(20)3205 E-mail somu02@jimu.nara-wu.ac.jp

“ならじよToday”へのご意見・ご感想を是非お聞かせ下さい。より良い誌面作成のため皆様の叱咤激励をお待ちしています。(編集部)

■バックナンバーはHPをご覧ください。▶<http://www.nara-wu.ac.jp/nwu/intro/today/index.html>